

ドキュメント分析

ドキュメント(document)

＝第三者によって記録され、物理的媒体によって保存表示された
質的データの材料

ドキュメント分析

＝ドキュメントを分析し、そこから社会的事実を読み取り、考察を
進める研究手法

ドキュメント分析の特徴＝情報源の多種多様性

- ・記録時点による区分
 - ・歴史的ドキュメント
 - ・同時代を記録したドキュメント
- ・記録主体による区分
 - ・公的機関：法令、報告書、議事録等
 - ・一般に流通するドキュメント：メディア、小説、演劇、図書、写真、・・・
 - ・個人的ドキュメント：伝記、自伝、日記、手紙、落書き・・・
- ・記録方法による区分
 - ・文字：新聞記事、雑誌記事、書籍、ホームページ、手紙
 - ・画像：写真、絵画、ポスター、テレビ、ビデオ、ネット
 - ・音：テレビ、ラジオ、歌、録音
- ・記録した出来事と記録者の関係での区分
 - ・1次的ドキュメント 目撃・体験者の記録
 - ・2次的ドキュメント 出来事の後1次的ドキュメント等を利用して記録
 - ・3次的ドキュメント 情報源を探すためのドキュメント 図書目録、検索サイト
- ・公私の区分
 - ・公的ドキュメント：行政の立場による記録
 - ・私的ドキュメント：一般の人が作成

ドキュメントの質を評価する基準

- ① 真偽(authenticity)
＝そのドキュメント自体は本物か
- ② 信憑性(credibility)
＝証拠の歪曲、偽り、誤り、ごまかしがない
⇒そのドキュメントが本物だとしても、そこに記録されている内容は信頼できるか
- ③ 代表性(representativeness)
＝そのドキュメントは調査対象を代表しているか
- ④ 意味(meaning)
＝ドキュメントは調査目的に照らし、明確か、理解しやすいか

コンテンツ・アナリシス (content analysis, 内容分析)

コンテンツ・アナリシス＝ドキュメントの分析

① 量的コンテンツ・アナリシス

② 質的コンテンツ・アナリシス

① 量的な内容分析

目的: 特定の単語や語句がテキストに登場する頻度を調べ、
テキストの特徴を分析する

→ テキストのなかの単語や語句の登場回数を数値化する

→ 単語がテキストにあらわれる回数を、重要度の指標とみなす

⇒ テキスト・マイニング (text mining)

量的な内容分析への批判

- 完成したテキストだけを考察し、そのテキストの作成過程を無視している
- 測定と標準化が可能な情報だけ进行分析するため、分析対象はカテゴリー化され、単純化できるデータに限定される
- 作者の用いた意味を再生産するだけで、テキスト作成時の様々な文脈に照らして批判的に分析するにはほど遠い
- 他の受け手の解釈が分析者の解釈と同一のものと仮定している
- 単語や語句の頻度が、必ずしもそれらの重要性を表すとは限らない

② 質的な内容分析

目的: シンボルの面からテキストの意味を「読解する」＝意味の解釈

テキストの意味を形づくる主要な構成要素

- ・作者＝意図された意味
- ・テキスト＝内容としての意味
- ・受け手＝受容された意味

ドキュメントの意味の解釈における3つのレベル

- ① 意図された意味
＝作者が伝えようと意図した意味



- ② 内的な意味(内容としての意味)
＝テキストの内部で完結している意味



- ③ 受容された意味
＝様々な状況の下で、受け手によって構築され、受容された意味

テキストの意味の探究法

- ① 「意図された意味」を把握するため、テキストの作成された過程やその時の社会の文脈を理解する
 - 観察や他の情報などを通し、テキスト作成の文脈を把握
- ② 「内容としての意味」を把握するため、記号論のアプローチなどを使用
 - テキストに埋め込まれている記号体系の文法を解明
- ③ 「受容された意味」を把握するため、テキストの受け手の置かれた状況を把握
 - 観察や他の情報などを通し、テキスト受容の文脈を把握